

「デザイン学研究・作品集」の執筆要領

■原稿：

原稿は、「作品論文」と「作品ムービー」で構成する(作品論文のみでも可)。日本語もしくは英語による完全版下原稿とする。掲載が決定した後に「作品論文」「作品ムービー」はその内容を訂正することはできない。

■原稿の長さ：

「作品論文」は、タイトル、著者名、所属、要旨、図、表、注などを含め、頁数を[4、6頁]のいずれかとする。「作品ムービー」は、タイトル、著者名、所属を示すタイトル頁を含め、その長さは3分以内の尺とする。

■標題：

タイトルは和文ならびに英文とする。特に、主題目は簡潔に、一見して作品の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「・・・に関する研究(III)」などの研究の連続性を示す標題は表題目とせず、副題目にする。英文タイトルにおいても、「Study on・・・」などとすることは避け具体的に表現する。作品名などの固有名詞を標題に加える場合は、固有名詞を先頭に置きその後ろに「:」をつける。固有名詞は和文、英文(アルファベット)のどちらでもよい。

■著者名・所属：

著者名は、作品のデザインプロセスに直接的に参加した者を記載する。共著者は非会員でも可とするが、会員・非会員を明記すること。尚、謝辞の中で挙げるのが適当と思われる者を共著者とすることは避ける。また、社名や組織名のみで個人名のないものは受け付けない。

■作品論文の標題・本文等の割付：

- 1) 学会 web サイトの「論文・作品集/作品投稿案内」にある「原稿フォーマット」をダウンロードして利用し、[標題、著者名、所属、和文要旨/英文 Summary]の割付を行う。
- 2) 要旨は、作品を発表する上での主張が的確に理解できるよう、平易な文で簡潔に記述する。英文要旨 [Summary]はネイティブチェック等の校閲を経たものとする。
- 3) 原則として区分を設けて記述する。例えば、[はじめに、作品の内容とその価値、デザインのプロセスとその価値、主張と考察、おわりに、謝辞、注]など。
- 4) 原稿には、大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章が変わる時には、1行あけて、新しい大見出し・章に入る。なお、中見出し・節、小見出し・項が変わっても、1行あけない。大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などに使用する書体は[ゴシック体:8.5ポイント]とする。大見出し・章は、1.、2.、3....、中見出し・節は1-1.、1-2.、1-3....、の記号(全角)を用い、本文は改行する。小見出し・項は、(1)、(2)、(3)...の記号(全角)を用い、改行せずに、1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。
- 5) 普通に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする(例えば、industrial design →インダストリアルデザイン)。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは、この限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字にする。
- 6) 数字は原則として算用数字を用い、例えば表 1、図 2、30cm、7g、1kg、1,258、5 時間、80 円のように記す。また、数字は、1桁の場合には全角文字、2桁以上の場合には半角文字を用い

る。年号、月日は、原則として算用数字を用いる。また、年号は西暦による表記を原則とし、元号を併記する場合には、例えば 1963(昭和 38)年のように記す。

- 7) 句読点は「。」、「、」、中点・ナカグロ「・」、コロン「:」を用い、それぞれ全角にする。英語表記では、ピリオド「.」、コンマ「,」を用い、それぞれ半角にする。また、/ 「」『』(){}〈〉《》[]【】なども全角にする。

■ 作品論文の図・表の割付：

1) 提示する作品の主張を代表する写真や図は、原稿 1 枚目の上段、[タイトル、著者名、所属]の下に充分な大きさと割り付ける。

2) 図・表には、図 1、図 2—1、表 1、表 2—2 のように通し番号(全角)をつけ、本文を併読しなくても理解できる程度の簡単な説明を、日本語ないしは英文で付記する。

英文の場合には、Fig.1、Fig.2-1、Table 1、Table2-2 のように、通し番号(半角)をつける。なお、図表のキャプションは、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記す。通し番号、タイトル、簡単な説明などに使用する書体は、[ゴシック体:8 ポイント]とする。

3) 特に必要でない限り、同一データを図と表とで重複させない。

4) 写真や図の画像解像度は 300dpi 程度にすること。

■ 作品論文の形式：

作品論文（投稿版）は、pdf ファイル形式で提出する。

作品論文（掲載版）は所定のファイル形式（Word りいは InDesign）と図（表）版（jpg など）で提出する。

■ 作品ムービーの形式：

1) 作品ムービーの画面サイズは 720pHD サイズ(1280×720 ピクセル)とし、その尺は 3 分程度とする。

2) 作品ムービーのタイトルを下図の通りムービー冒頭 5 秒間に必ず入れる。作品論文と同一の「**標題、著者名、所属(和文ならびに英文)**」をムービーのタイトルとする(画面上部)。学会が行うオープニングとして、冒頭画面にデザイン学会作品集の発行情報(奥付け)を白抜き文字で提示する



(画面下部)ので、それが見えるように画面の色を考慮する。

図. 作品ムービー表紙サンプル

3) 作品ムービーのデータはオリジナルデータ(.dv / .mpg / .avi / .mov)で提出する。圧縮データ(.mp4 / m4v など)で提出すると画質が荒くなるので避ける。

■ 投稿及び提出方法：

原稿はメール添付もしくはインターネット大容量ファイル転送サービスなどを利用して審査委員会事務局へ送ることを原則とする。メディア(CD-ROM もしくは DVD-ROM)を郵送する場合は、事前に作品審査事務局へ連絡の上、期日必着で送付する。尚、やむを得ない事情により遅れる場合は期日までに委員会事務局に連絡すること。連絡なき場合には期日以降のものは受け付けない。

■ 掲載のための最終原稿の提出：

掲載が決定した作品論文と作品ムービーは、「最終原稿一式」とし、学会誌編集出版のため以下の形式で作品審査委員会事務局に提出する。最終の審査結果において修正依頼のない場合、(1) および(4)の提出は不要となる。

- (1) 「作品論文」(pdf ファイル)
- (2) 「作品論文(原稿)」(word または InDesign ファイル)
- (3) 作品論文の「図版(原稿)」(jpg ファイルなど)
- (4) 「作品ムービー」

■ 注：

1) 注は、通し番号とし、1)、2)のリストで表記する。また、本文中の当該事項の後に、[注 1]、[注 5-]の ように記す。文章の末尾に記す場合には、句読点の前に記す。引用・参考文献は注として扱う。

2)注における引用・参考文献は、原則として、次のように記す。雑誌の場合は、著者:標題、雑誌名、巻、号、頁、年の順に記す。例えば、

- 1) 山田太郎:シンボル・デザインの日本的特性、デザイン学研究、Vol.45, No.3, pp.57-60,1981
- 2) Bohannon, P.:New Project for IndustrialDesign, Current Design, Vol.5, No.3,1966

著書の場合は、著者:書名、発行所、頁、発行年の順にする。例えば、

- 5) 日本富士雄:図説デザインの基礎、日本書房、pp.55-2,1971
- 6) 7) Leach, E.:Forms and Function, National Press, p.7, 1976

翻訳本の場合には、著者、翻訳者:書名、発行所、頁、発行年の順に記す。例えば、

- 10) ベルグ, A.、田中一郎訳:サインとシンボル、世界デザイン出版、p.23,1957
- 13) Murdock, G., M.B. Caffee, trans.:Stage of Design, Univ. Press, pp67-68,1978

■ デザイン学研究・作品集、作品論文の原稿フォーマット：

デザイン学会サイトの投稿案内(以下の URL)から作品集の「原稿フォーマット」(著者が使いやすいフォーマット)をダウンロードし、使用すること。尚、学会誌出版(J-stage 掲載)のための編集入稿作業は学会より委託する業者がおこなう。

<http://jssd.jp/papers-and-works/post-works>

■ 最終原稿一式の送付先：

作品審査委員会事務局

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8 東京藝術大学 美術学部 デザイン科 須永 剛司

e-mail：jssd.sakuhinshu@gmail.com

■ 本執筆要領の施行・改正：

本執筆要領は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。なお、本要領の改正は、理事会の議を経て、作品審査委員会が行う。(平成 24 年 4 月 1 日、平成 28 年 7 月 2 日一部改正)